

先端研究基盤共用促進事業キックオフ・シンポジウム  
パネルディスカッションでの主な意見

日時：平成 28 年 9 月 6 日（火）16:40～18:00

場所：文部科学省第 2 講堂（旧文部省庁舎 6 階）

モデレーター：大阪大学産学連携本部 門村特任准教授

パネリスト：名古屋工業大学 江龍副学長、東京工業大学 大竹副学長、  
慶應義塾 真壁常任理事

コメンテーター：北海道大学 川端理事・副学長、名古屋大学 國枝理事・副学長

事務局出席者：伊藤局長、真先審議官、渡辺課長

### 1. 機器の共用化のメリット

- RCS（リサーチコミュニケーションスペース）を設置し、装置を集約したことにより、教員の負担軽減、異分野融合の場の創出等の効果があった。
- 高額な機器を学生が使えるようにすることで修論の内容を高度化できる。また、高度機器の運用を「任せる」ことにより、装置に愛情をもった技術職員を育成できる。また、外国人研究者等がすぐに設備を利用して研究できる環境の実現や、外部研究者がすぐに使えることによる産学官連携研究の推進なども期待できる。また、共用化という難しい課題に取り組むことで、技術職員、事務職員を含めた教職共働を実現できた。
- 個人で持っている装置で休眠状態のものを活用し、うまく制度設計することによりメンテナンス等もできるようになる。

### 2. 共用システム導入の際の困難

- RCS の場所をねん出するため、スペースチャージ制を利用した。広すぎる研究スペースを持つ教員から場所を手放してもらい、総長直轄の組織で管理できる場所をねん出した。
- 現在問題になっているのは、機器の面倒を見る人がいないために機器の共用化が進まないということ。愛情をもって機器の面倒を見る人がいないと、機器の故障頻度が上がる。
- 共用するためのスペースをねん出することは課題。学部長と face-to-face で議論している。

### 3. 大学のマネジメントでの留意点

- 名工大では、10 年かけて大学改革を行い、総長がイニシアティブをとれるような下地を整えてきた。その上にこの共用事業があるから上手くいく。
- 大学としての一貫した姿勢（ビジョン）が必要。東工大でも、平成 28 年の 4 月に大学の学部と大学院の研究科を一体化させる組織改革を行った。これと同時に新たな共用システムの導入を進められたことがよかった。

- 研究設備・機器について議論するため、学部横断的に年 10 回の会合を開いている。学部間で密に連絡を取り合うことにより、教員から協力を得ている。

#### 4. 技術専門職について

- 技術職員等の人を集約できていない。また、今後どのように機器を更新していくかが課題。
- 育成した人材を長期間雇えるシステムが必要。
- 学外も含めてキャリアパスを歩んでいけることも含めて考えていけるようにする必要がある。測定や分析技術を身につける必要はあるが、その技術を見える化する必要がある。
- 技術は進歩するのでそれに基づいて技術職員が成長する必要がある、技術職員を育てるという視点が必要。
- スーパーテクニシャンを育成できるようなシステムを文科省に作ってもらいたい。技術者支援とハードウェアの共用と両輪で取り組んでほしい。地方大学でも良い人材が得られるような仕組みがほしい。
- 装置から愛されるくらいのスーパーテクニシャンになるべく、共用事業や企業との連携によって若手が育つような環境が必要。
- 論文投稿等研究成果に直接寄与しない技術職員の取組をどのように評価するかが課題。
- 北大では各学部で技術職員の評価をしているが、大学全体としての評価をできていない。
- 技術職員が外部から受注できる取組（試作ソリューション事業）等を試みている。その収入を技術職員用の事業費に還元し、全学として理解をしてもらえるように推進している。
- 東工大は技術組織を一元化し、評価も一定の形でできるようになった。キャリアパスは極めて重要だが、そこはまだ課題。

# キックオフ・シンポジウム

～オープンイノベーションプラットフォームの形成に向けて～

15:30-15:35

## 開会挨拶

伊藤 洋一 科学技術・学術政策局長

15:35-15:45

## 事業主旨・概要説明

渡辺 その子 科学技術・学術政策局 研究開発基盤課長

15:45-16:30

## 各機関の取組紹介

「先端的設備・技術を基盤として研究開発を先導するNMR共用プラットフォーム」

木川 隆則 理化学研究所生命システム研究センター生体分子構造動態研究チームチームリーダー

「風と流れのプラットフォームが拓く世界」

浅野 俊幸 海洋研究開発機構地球情報基盤センター情報システム部HPC応用グループグループリーダー

「北海道大学の研究基盤戦略

～グローバルファシリティセンター構想と先端研究基盤共用促進事業～」

川端 和重 北海道大学理事・副学長

16:40-17:55

## 新たな共用システムに関するパネルディスカッション ～共用化促進のためのマネジメントとは～

モデレーター

門村 幸夜 大阪大学産学連携本部特任准教授

パネリスト

江龍 修 名古屋工業大学副学長

大竹 尚登 東京工業大学副学長

真壁 利明 慶應義塾常任理事

コメンテーター

川端 和重 北海道大学理事・副学長

國枝 秀世 名古屋大学理事・副学長

17:55-18:00

## 閉会挨拶

真先 正人 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）

18:30-20:00

## 懇親会・ポスターセッション※

会場：文部科学省 1階食堂

※別途参加費（1,000円）が必要となります。

### 開催日時

2016年9月6日（火）

（開場） 15:00

（開始） 15:30

（終了予定） 18:00

### 開催場所

文部科学省第2講堂  
（旧文部省庁舎6階）

東京都千代田区霞が関3-2-2

### 参加申し込み・お問合せ

文部科学省 科学技術・学術政策局  
研究開発基盤課 田村・川崎・加藤

Mail: kyoyo-symposium@mext.go.jp

お申込締切：9月1日（木）17:00